

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	教授 吉水清孝	1学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読(1)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。 今学期は第11巻中盤を講読する。第11巻中盤では、パーンダヴァ五王子たちが戦死した百王子の母ガンダーリーに対面し、父ドリタラーシュトラに対して以上に罪の意識におびえるが、ガンダーリーは悲しみつつも、同じく息子全員が戦死した五王子たちの妻ドラウパディーを慰める。 毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) 出席 [30%] ・ (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	教授 吉水清孝	2学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読(2)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	今学期は、前学期に引き続き、『マハーバーラタ』第11巻後半を講読する。百王子の母ガンダーリーが仙人ヴィヤーサより天眼を授かり、むごい戦場の光景を延々と目の当たりにして慄き、最後には神の化身であるクリシュナを、息子たちの破滅を引き起こした張本人として糾弾し、呪う。 毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 III	2	非常勤講師 沼 田 一 郎	集 中 (1)		
◆ 講義題目	インド古代法研究				
◆ 到達目標	ダルマ・シャーストラ文献において、〈法〉概念が具体的にはどのような規定として現れているかを理解し、インド古代法の概要と歴史的な変遷を把握する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ダルマ・シャーストラ文献は『マヌ法典 (Manusmṛti)』以降、形式・内容ともに大きく変容するが、それは第7章「王権 (rājadharma) 篇」と第8、9章「司法 (vyavahāra) 篇」から知ることができる。本講義では『マヌ』にいたるまでの文献史を概説し、「司法篇」のテキストを講読する。その際、カウティリヤの『実利論』や他のダルマ・シャーストラも参照して理解を深めたい。また、個々の規定の法的な意義についても考えたい。</p>				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	渡瀬信之訳『サンスクリット原典全訳 マヌ法典』平凡社、2014年。 井狩・渡瀬訳『ヤージュニャヴァルキヤ法典』平凡社、2002年。 渡瀬信之『マヌ法典 ヒンドゥー教世界の原型』中公新書、1990年。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I	2	教授 桜 井 宗 信	1 学期	火	3
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。</p>				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.				
その他： 「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 II	2	教授 桜井宗信	2学期	火	3
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前期に引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37.				
その他：「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	教授 吉水清孝	1学期	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究(1)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヴェーダーンタはインドの一元論を代表する哲学思想であるが、宇宙の根源である絶対者と個人精神との関係をめぐっては様々な傾向があった。シャンカラは個人精神の中核が絶対者と全く同一であるとする急進的な一元論を説いたが、彼の Brahmasūtra 註での解説には、彼自身の思想とは必ずしも合致しない、絶対者と個人精神との間に或る種の区別を設ける場合が見られる。この傾向は絶対者を「最高我」(paramātman) という呼称で言い表す場合に顕著である。</p> <p>今学期は、シャンカラが paramātman と個人精神との関係をどのように論じているかを検討し、シャンカラとシャンカラに先立つ伝統的ヴェーダーンタとの関係を考察する。授業ではまず先に、シャンカラが paramātman に関係付けているウパニシャッドの章句をまとめて講読し、続いて、それを論ずる Brahmasūtra 註の各論題での論述を抜粋して講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	教授 吉 水 清 孝	2 学期	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究(2)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>シャンカラが不二一元論派を確立したのち、ヴェーダーンタ学派には、より伝統的な「知行併合」の立場を守るバースカラが現れ、シャンカラの急進的な思想を批判した。バースカラが著したBrahmasūtra 註は、これまで遺漏の多い出版本が一つあるのみであったが、近年写本研究に基づいた批判的な校訂本が公にされた。</p> <p>今学期は、前期に取り上げたBrahmasūtraの諸論題をバースカラがどのように論じているのかを検討し、「最高我」(paramātman)についてのシャンカラの理解とバースカラの理解を比較する。また両人が「知行併合」について相対立する見解を論ずるBrahmasūtra 1.1.4への註釈も、可能な限り比較して検討したい。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 研 究 演 習 I	2	教授 桜 井 宗 信	1 学期	月	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書第2章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真諦訳)。 <p>※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅱ	2	教授 桜井宗信	2学期	月	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	○出席 [70%] ○授業中に示される理解度 [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					